

園児の願いを乗せた七夕バス

3日、関東バス阿佐谷営業所（下井草 1-5-3）が、七夕の飾りつけをしたバス車内に地元の園児 17 名を招き、交流会を行いました。関東バスが企画したこの会は、バス会社も地域の一員として区民と交流を深めたい、との思いが込められています。3回目となる今年の七夕バスは、関東バスのキャラクター「かんにゃん」のラッピングバスで運行されます。園児たちは、願いを書いた短冊を飾るほかにも、乗車したままで行われる洗車体験やバスに関する質問コーナーなど、約 1 時間の楽しい時間を過ごしました。

関東バスの阿佐谷営業所は七夕とクリスマスの時期に、区立本天沼保育園（本天沼 3-34-35）の園児と交流会を行っています。この会は 3 年前に阿佐谷営業所に赴任した古川豪副所長のアイデアから生まれたものです。副所長は、バス会社の役割は乗客の安全輸送はもとより、地域の一員としていざという時に助け合える関係を築くべきだ、という考えを持っていました。同僚にこの思いを打ち明けると多くの賛同が得られ、バスを身近に感じてもらうために地元の園児を招いて交流会を行うことになりました。七夕やサンタさんへの願い事を車内に掲示する特別なバスは今年で 3 年目となり、関東バスの HP に掲載されている情報がツイッターで拡散されるなど、地域の人も楽しみにする風物詩となりました。

3 日午前 10 時、本天沼保育園の年長クラスの 17 名が営業所を訪れました。園児たちは園のみんなが願い事を書いた 50 枚ほどの短冊を手し、バスに乗り込みました。今年の七夕バスは、関東バスが保有する 400 台のうち 1 台しかない、関東バスのキャラクター「かんにゃん」のラッピングバスです。車内にはすでにバス会社社員が手作りで網飾りや笹などが飾られており、そこに園児たちの「ユーチューバーになりたい」「きょうりゅうじだいにいってみたい」などの願い事を書いた短冊が貼られて、七夕バスが完成しました。

その後、園児らを乗せたままバスの洗車が行われました。窓にブラシが近づくと、園児たちからこの日一番の歓声があがり「音がすごいよ」「虹がみえる！」と大興奮の様子でした。最後に行われた質問コーナーでは「かんにゃんはしゃべれないの？」など、園児からの疑問に副所長が 1 つ 1 つ丁寧に答えていました。

この七夕バスは、今後 7 月 3 日から 16 日まで保育園の保護者たちもよく利用する荻窪駅から中村橋駅や、練馬駅から荻窪駅の区間を通常運行します。古川副所長は「今後もこの催しを続けて、地域の方と交流を深めていきたい」と話していました。



【問い合わせ先】

関東バス阿佐谷営業所：古川副所長 03-3399-3185
総務部広報課 03-3312-6855（直通）